

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	シバザクラの公園を散策する見学者に憩いの場所を提供する事業
事業主体 (連絡先)	白塩町河川公園愛護会 大町市大町1266-8番地
事業区分	⑤環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	421,740円(うち支援金:316,000円)

事業内容

平成24年から河川公園の美化の柱としてシバザクラを植栽し「シバザクラ公園」にしていこうというプロジェクトが立ち上がった。その後活動を継続して12年間シバザクラの植栽・管理・育成、河川の岸辺・土手・通路等の除草を行っている。植栽を始めて5～6年頃から景勝地としての評判が広がり県内外からも大勢の見学者訪れるようになってきている。見学者の心の癒しの空間となっている公園を更に充実させ地域の宝として若い世代に引き継ぎ守って行ってもらうためにコンクリート製ベンチ3基を設置する事業を実施した。



【設置したベンチ】

【目標・ねらい】

- ① シバザクラの管理育成
- ② ベンチテーブルの増設
- ③ 愛護会のメンバーの増員
- ④ 公園の存在のアピール

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 支援金でコンクリート製ベンチ3基を設置した。コンクリート製のテーブルがセットになる迄木製の電線ドラムを仮テーブルとして設置した。
- ② 設置が花盛りの5月のゴールデンウィーク後のことなので今年の見学者には影響はなかった。しかし夏以降川辺の散策者が休憩に使用している。お弁当や飲物を広げてくつろぐ家族連れの様子を見ると、「設置してよかったなあ～」との思いが強くなる。

※自己評価【A】

【理由】

- ・地元の人たちや観光客との触れ合いの中から自分たちの取り組みが人の心を癒していることを常々実感しているから。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。今後は

- ・今後もこの事業を継続してコンクリート製ベンチを3基とコンクリート製テーブル4基を設置したいと考えている。
- ・上記の事業以上に大切なことは「シバザクラの公園」の現在の姿で維持していくことである。白塩町河川公園愛護会も高齢化で会員は減少の一途をたどっている。新しい若い会員が入ってくれないと河川公園のシバザクラを育てていくことも河川管理の維持もできなくなってしまう。協力者をどうやって増やしていくかが最大の課題である。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある